

平成 21 年度

病害虫発生予報第 7 号

平成 22 年 3 月 18 日

三重県病害虫防除所

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ <http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo>

目 次

	ページ
1. 向こう 1 か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	1
3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠	2
4. 予察項目の見方	8
5. 今月のトピックス（ネギ類の病害虫について）	9
6. 気象のデータ	10
7. おしらせ	12

1. 向こう 1 か月の予報と対策

1) 作物

イネでは、イネミズゾウムシの発生量は**平年並**と予想されます。

コムギでは、赤かび病の発生量は**やや多**と予想されます。開花期には予防散布を行ってください。

2) 果樹

カンキツでは、そうか病、かいよう病（温州みかん）、ミカンハダニの発生量は少、かいよう病（中晩柑類）の発生量は**やや少**と予想されます。

ナシでは、黒星病の発生量は**平年並**と予想されますが、昨年発生が多かった圃場では、観察を怠らないようにして下さい。赤星病の発生量は**少**と予想されます。

3) 茶

チャでは、カンザワハダニの発生量は**平年並**とされます。チャノホソガの発生時期は**早**、発生量は**平年並**と予想されます。

4) 野菜

イチゴでは、灰色かび病、ハダニ類の発生量は**やや多**と予想されますので、気象や発生の動向に注意して防除して下さい。うどんこ病の発生量は**平年並**と予想されます。

キャベツでは、菌核病の発生量は**平年並**と予想されます。

2. 作物別の状況

作物名	病虫害名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項	
			平年比	平年比		程度	平年比	3月	4月		
							下旬	上旬	中旬		下旬
イネ	イネミズゾウムシ	—	平年並	小	普通					成虫誘殺数	<ul style="list-style-type: none"> 1) 近年、発生が少ないので、田植え後に発生の状況に応じて防除してください。 2) 常発圃場では箱施用による予防散布を行ってください。
コムギ	赤かび病	—	やや多	小	普通		出穂期	開花期		感染 発病	<ul style="list-style-type: none"> 1) 圃場ごとに出穂および開花状況を把握し、開花始めから開花盛期に予防散布してください。 2) 防除所ホームページの「コムギ赤かび病・防除情報」において出穂期および防除適期の予測（随時更新）を公開しています
カンキツ	そうか病	—	少	小	低	葉枝の発病		発芽			<ul style="list-style-type: none"> 1) 近年発病がやや増加傾向です。果実発病がみられた圃場では、発芽期防除を必ず実施してください。 2) 春葉が感染する期間は発芽直後から伸長停止期までです。 3) 越冬病斑の見られる枝葉は剪除して、圃場より持ち出して処分してください。
	かいよう病	—	温州少 中晩柑やや少	温州小 中晩柑小	温州低 中晩柑普通					発病密度	<ul style="list-style-type: none"> 1) 昨年の台風来襲により、越冬病斑が多い圃場があります。発芽前防除を必ず実施してください。 2) 発病枝葉はなるべく剪除し、圃場より持ち出してください。 3) 石灰ボルドー液とマシン油乳剤の近接散布に注意してください。
カンキツ	ミカンハダニ	—	少	小	低		成ダニ密度				<ul style="list-style-type: none"> 1) 成虫が1葉当り1頭前後になったら防除してください。 2) マシン油乳剤を散布していない圃場では、今後の増加に注意してください。

作物名	病虫害名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生病消長の一例				防除の注意事項
			平年比	平年比		程度	平年比	3月	4月	
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
ナシ	黒星病	—	平年並	小	普通					1) りん片に発病を確認したら、基部から切除して圃場外で処分してください。 2) りん片や新梢基部に発病が確認されたら、すぐに防除を実施してください。 3) 例年発生が多い圃場では、早くから樹体の観察を怠らないようにしてください。
	赤星病	—	少	小	低					1) 赤星病の防除時期は、黒星病の防除適期と重なります。 2) 特に開花期前後の防除が重要なので、各薬剤の特性を理解して両方に登録のある薬剤を使用してください。
チャ	カンザワハダニ	—	平年並	中	普通					1) 冬期の気温が高いため、活動が早まっているようです。密度上昇前に防除を行うと効果が高くなります。 2) 4月上旬頃までは茶樹の南側や東側の裾部に多く発生する傾向があるので、裾部の葉裏に薬液が十分かかるようにしてください。
	チャノホソガ	早	平年並	小	普通					1) 新葉の葉裏に産卵または孵化幼虫を認めたら防除してください。 2) 成虫飛来があっても新芽がないと産卵しません。新芽への生育状況を考慮して防除要否を判断してください。

作物名	病虫害名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項	
			平年比	平年比		程度	平年比	3月	4月		
						下旬	上旬	中旬	下旬		
イチゴ	灰色かび病	—	やや多	中	普通	発病密度					<ol style="list-style-type: none"> 20℃前後で多湿の時に発生しやすいので、施設の換気に努めてください。 老化・枯死した下葉は、伝染源になるので除去し、発病果も速やかに除去します。胞子が飛散しないよう袋に密封するか土中に埋めてください。 降雨が続く場合はくん煙剤を使うと、防除による湿度の上昇を防げます。 株全体に発生するので、薬剤散布をするときは発病部位だけでなく株全体に薬液がかかるよう丁寧に散布してください。
	うどんこ病	—	平年並	中	普通	発病密度					<ol style="list-style-type: none"> 発病を認めたときは、集中的に薬剤散布し、十分に防除してください。治まった後も再発しないか注意をはらってください。 発病果は伝染源となるので、見つけ次第除去してください。
	ハダニ類	—	やや多	中	普通	ダニ密度					<ol style="list-style-type: none"> 早期発見に努め、寄生密度が低いうちに防除を行ってください。密度が上昇したあとの防除では効果が劣ります。 薬剤がかりやすくなるよう、不要な下葉を除去して丁寧に散布してください。 薬剤散布にあたっては、ミツバチや天敵に対する影響に十分注意してください。 ハダニ類は抵抗性が発達しやすいので、同一薬剤や同一系統薬剤の連用は避けてください。
キャベツ	菌核病	—	平年並	小	普通	発病密度					<ol style="list-style-type: none"> 結球期ごろから目立ち始め、葉の傷口や生育の衰えた下葉から感染します。 薬剤は初発部位である株元に十分かかるように散布してください。 菌核は土中で5年以上生き残ることがあるので、発病株は菌核をつくらぬうちに処分してください。

3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ	イネミズゾウムシ	－	平年並	<p>要因</p> <p>1) 巡回調査圃場（昨年 8 月）では、発生圃場率 14.1%（平年 11.3%）と多、払い落とし虫数 0.3 頭（平年 1.5 頭）と少（±）</p> <p>考察： 昨年の巡回調査結果から、越冬成虫量および予想発生量は平年並と考えます。</p>
コムギ	赤かび病	－	やや多	<p>要因</p> <p>1) 3 か月予報（2 月 25 日発表）によると、平年に比べ、曇りや雨の日が多い予想（+）</p> <p>2) 一般圃場では、播種時期による圃場間の生育差が大きく、出穂および開花時期がばらつく見込み（+）</p> <p>考察： 今後の気象条件と一般圃場の生育状況から、予想発生量はやや多と考えます。</p>
カンキツ	そうか病	－	少	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報（3 月 12 日発表）によると、平年と同様に晴れる日が多い予想（±）</p> <p>2) 昨年 7 月下旬の県予察圃（無防除圃場）では、春葉の発病率は 23.0%（平年 58.7%）とやや少の傾向（-）</p> <p>3) 巡回調査圃場（3 月第 1 週）では、昨年春葉における発病は確認できず（平年発病度 0.2）（±）</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少（-）</p> <p>考察： 一般圃場の発生状況から、発生量は少と考えます。</p>
	かいよう病	－	温州少 中晩柑 やや少	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報（3 月 12 日発表）によると、平年と同様に晴れる日が多い予想（±）</p> <p>2) 県予察圃（無防除圃場、2 月 8 日調査）では、越冬病斑の発病葉率は 38.7%（平年 31.5%）、発病度 9.0（平年 7.0）と平年並の傾向（±）</p> <p>3) 巡回調査圃場（3 月第 1 週）では、病斑は温州みかんで未確認(±)、中晩柑類 4 地点で発病確認(±)（±）</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は概して温州みかんで少、中晩柑類で少～平年並（概してやや少）（-）</p> <p>考察： 一般圃場の発生状況を重視して、発生量は温州みかんで少、中晩柑類ではやや少と考えます。</p>
	ミカンハダニ	－	少	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報（3 月 12 日発表）によると、平年と同様に晴れる日が多い予想（±）</p> <p>2) 県予察圃（3 月 10 日）では、1 葉当りの寄生虫数は、防除圃場で 0 頭（平年 16.5 頭）、無防除圃場で 1.1 頭（平年 21.2 頭）と少の傾向（-）</p> <p>3) 巡回調査圃場（3 月第 1 週）では、寄生葉率は 0.2%（平年 4.4%）、平均寄生虫数は 0.002 頭（平年 0.21 頭）と少（-）</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少～平年並（概して少）（-）</p> <p>考察： 大きな増減の要因はなく、発生量は少と考えます。</p>

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
ナシ	黒星病	－	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（3月12日発表）によると、平年と同様に晴れる日が多い予想（±）</p> <p>2) 昨年8月の巡回調査圃場では、平均発病葉率は3.6%（平年0.9%）と多の傾向（+）</p> <p>3) 一般圃場では、昨年秋の発生量はやや少～平年並（概して平年並）（±）</p> <p>考察： 昨年的一般圃場の発生状況を考慮して、発生量は平年並と考えます。</p>
	赤星病	－	少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（3月12日発表）によると、平年と同様に晴れる日が多い予想（±）</p> <p>2) 昨年的一般圃場では、発生量は少（－）</p> <p>考察： 昨年的一般圃場の発生状況を考慮して、発生量は少と考えます。</p>
チャ	カンザワハダニ	－	平年並	<p>要因</p> <p>1) 本年1月以降、気温は平年より高く推移（+）</p> <p>2) 1か月予報（3月12日発表）によると、平年と同様に晴れる日が多い予想（±）</p> <p>3) 県予察圃（3月上旬）では、寄生葉率は7.5%（平年4.30%）と多、1葉当りの寄生頭数は、0.11頭（平年0.324頭）と少（±）</p> <p>4) 巡回調査圃場（3月第1週）では、寄生葉率は2.6%（平年1.96%）とやや多、寄生頭数は0.07頭（平年0.053頭）とやや多（+）</p> <p>5) 一般圃場では、発生量はやや少～平年並（概してやや少）（－）</p> <p>考察： 現状は概して平年並と思われ、そのまま発生程度は平年並と考えます。</p>
	チャノホソガ	早	平年並	<p>要因</p> <p>1) 本年1月以降、気温は平年より高く推移（発生時期－、発生量＋）</p> <p>2) 1か月予報（3月12日発表）によると、平年と同様に晴れる日が多い予想（発生時期±）</p> <p>3) 一番茶の萌芽期および伸育は平年よりやや早の予想（+）</p> <p>4) 県圃場では、フェロモントラップ成虫初飛来は3月14日（平年3月第5半旬）と早（+）</p> <p>5) 昨年9月の県圃場では、フェロモントラップ誘殺数は1,316頭（平年2,098.6頭）と少（－）</p> <p>考察： すでに初飛来が見られていることから発生時期は早と考えます。越冬密度は低い可能性がありますが、産卵に好適な状況と考えられるので、発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イチゴ	灰色かび病	—	やや多	要因 1) 1か月予報（3月12日発表）によると、平年と同様晴れる日が多い予想（±） 2) 巡回調査圃場（3月第1週）では、発病株率は4.2%（平年0.6%）と多、発病果率は0.4%（平年0.4%）と平年並（+） 3) 一般圃場での発生量は、並～やや多（概してやや多）（+） 考察： 一般圃場での発生量及び巡回結果から、予想発生量はやや多と考えます。
	うどんこ病	—	平年並	要因 1) 1か月予報（3月12日発表）によると、平年と同様晴れる日が多い予想（±） 2) 巡回調査圃場（3月第1週）では、発病株率は2.9%（5年平均0.07%）とやや多の傾向、発病果率は0.0%（平年0.07%）と少の傾向（+） 3) 一般圃場での発生量は少～平年並（概して平年並）（±） 考察： 一般圃場及び巡回調査結果を考慮し、予想発生量は平年並と考えます。
	ハダニ類	—	やや多	要因 1) 1か月予報（3月12日発表）によると、平年と同様晴れる日が多い予想（±） 2) 巡回調査圃場（3月第1週）では、寄生株率は8.4%（5年平均15.2%）とやや少の傾向（-） 3) 一般圃場での発生量は、並～やや多（概してやや多）（+） 考察： 一般圃場の発生を重視し、予想発生量はやや多と考えます。
キャベツ	菌核病	—	平年並	要因 1) 1か月予報（3月12日発表）によると、平年と同様晴れる日が多い予想（±） 2) 2月及び3月の降水量が多く経過（+） 3) 巡回調査圃場（3月第1週）では、発病株率は0.0%（平年0.6%）と平年並みの傾向（±） 4) 一般圃場は、発生量は平年並（±） 考察： 一般圃場での発生を重視し、予想発生量は平年並と考えます。

4. 予察項目の見方

1) 「作物別の状況」の見方

発生時期（平年比）： 平年の発生月日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数		-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年 発生日	1	2	3	4	5	6	
評価		早	やや早		平年並				やや遅			遅			

発生量（平年比）： 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感ずることがあります。

		平年値 ↓				
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並		やや多	多

発生量（程度）： 発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量（平年比）」と比べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よ

りやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

要防除圃場率（平年比）： 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除をしていればいいと予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除などが必要な圃場の割合が相当増加すると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか防除しなくても済むような圃場の割合が相当増加すると予想されます。

低	普通	高
---	----	---

発消長の一例： 発生予報は向こう1か月の予報ですが、その前後を合わせて40日ほどの病害虫の発消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項： 向こう1か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

2) 「発生時期・発生量（平年日）の予察根拠」の見方

(±)：平年並の要因

(+)：発生量増加または発生時期遅延の要因

(-)：発生量減少または発生時期早期化の要因

5. 今月のトピックス 「ネギ類の病害虫について」

ネギ、タマネギ、ニンニク、ニラ等には共通して発生する病害虫が多く、それらの主要なものの特徴を紹介します。

- 1) さび病 春と秋の2回発生します。真冬は潜伏期間が非常に長く、真夏は一時的に姿を消します。秋から冬にかけて形成された胞子は今年のように3月の気温が高く降雨が続くと多発します。また、窒素肥料が多く軟弱に育っていると更に被害は多くなります。予防するとともに発生状況に注意し、春の初発を認めたら、周囲への感染を防ぐため早期に対策を施す必要があります。
- 2) 疫病 最も一般的に見られる病害で、特に梅雨期から初秋にかけて降雨が多いと発生しやすく、葉先から上半部にかけて多く発生し、初期は白色の菌糸を生じ病斑を形成し、後に黄白色となります。
- 3) べと病 春と秋に発生しやすく、楕円形の黄緑色の病斑上に白色から暗紫色のカビを生じます。雨が続けば二次感染を繰り返します。
- 4) 黒斑病 梅雨期と秋雨期に多く発生しますが、葉ネギではさび病等他の病害の防除をするためかほとんど見当たりません。白ネギでは展葉速度が遅いのと、比較的防除回数が少ないのか、年間を通じて病斑が認められます。
- 5) 葉枯病 黒斑病の病徴とそっくりですが、黒斑病と比べると肥料切れすると発生しやすく、葉先から上半部にかけて病斑ができ、葉ネギでは黒斑病より葉枯病が目立ちます。
- 6) ネギアザミウマ 体長 1.3mm 程度で年 10 世代以上を繰り返し、葉の表面をかすり状に食害し商品価値を低下させます。乾燥条件を好み、特に空梅雨の年は多発します。大雨や豪雨の後は急激に密度が低下します。年間発生回数が多いので、こまめに発生状況を把握し、適期防除に努めます。

- 7) ネギコガ 幼虫は 9mm 程度に達し、年 5~8 世代繰り返し、特に 5~6 月と 10 月頃に多発します。幼虫が葉の内部から食害し線状の白斑を残します。終齢幼虫は葉の表に網状の繭を作り蛹となります。
- 8) ネギハモグリバエ 幼虫は 4mm 程度のウジで葉の内側から葉肉部を食害し、ネギコガの食害痕とよく似た症状を呈します。老齢幼虫は地中にはいり蛹化します。また成虫は規則正しく並んだ白点の傷を作ります。5 月頃から発生し、年 5~6 世代を営みます。
- 9) シロイチモジヨトウ 成虫は 5 月頃から 11 月まで発生しますが、ネギ圃場における幼虫の発生は 7 月頃から認められ、被害は 9 月頃ピークに達し 11 月まで続きます。若齢のあいだはネギコガの被害によく似た症状を呈しますが、卵塊があった近くに被害が集中し、4 齢以降は大きく根本にむけ食害し、葉身内に虫糞が溜まり、老齢幼虫は 30mm に達します。広食性でネギ以外にもスイカ、ニンジン、ダイコン、カーネーション等野菜類や花卉類 50 種以上の植物を加害します。薬剤による防除は若齢のうちに行うよう努めてください。

ネギ類病害の特色

病害	胞子の発育温度	雨の影響	主な被害作物
さび病	15~20℃	+	ネギ、タマネギ、ニンニク、ニラ
疫病	10~37℃	+	ネギ、タマネギ
べと病	13~15℃	+	ネギ、タマネギ、ワケギ
黒斑病	6~34℃	+	ネギ、タマネギ、ニンニク、リーキ
葉枯病	20~25℃	+	ネギ、タマネギ、ニンニク

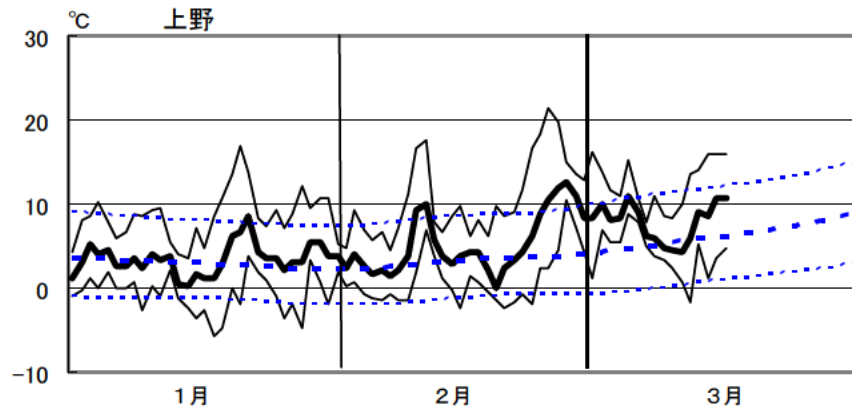
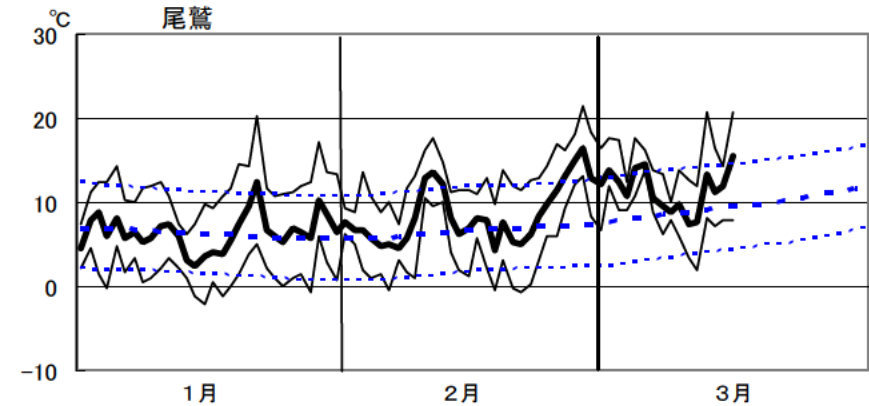
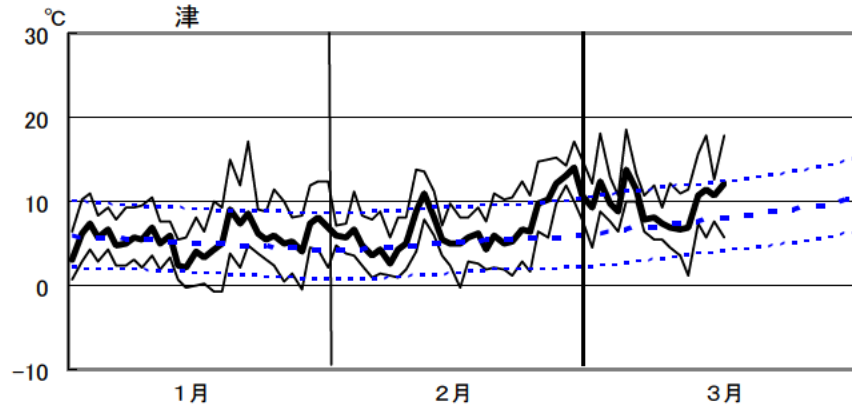
6. 気象のデータ

東海地方1か月予報 (平成22年3月12日 名古屋地方気象台発表)

東海地方の向こう1か月は、天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に高気圧に覆われて晴れる日が多いですが、気圧の谷や前線の影響を受ける日もある見込みです。

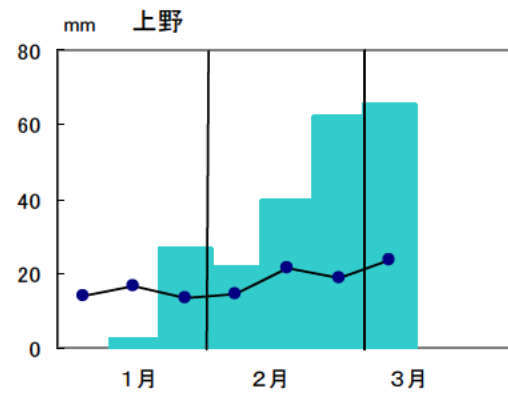
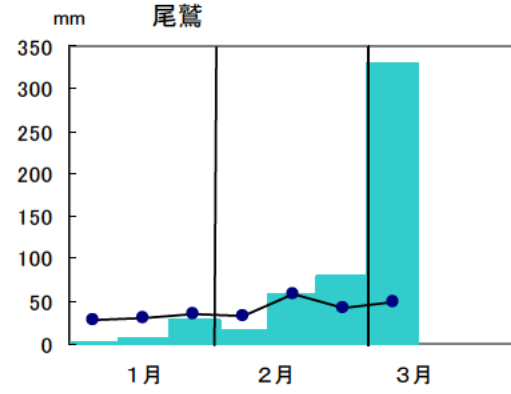
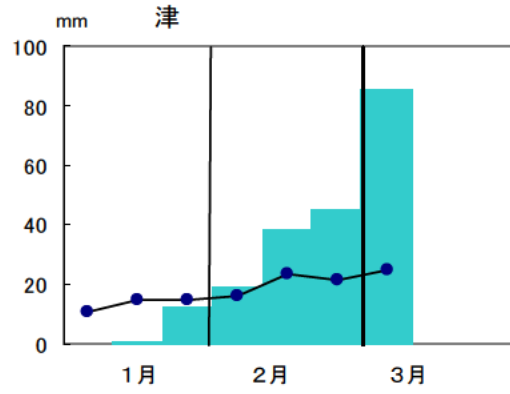
1週目 (3月13日～19日)	天気は短い周期で変わり、期間のはじめと中頃に気圧の谷や前線の影響で曇りや雨となりますが、高気圧に覆われて晴れる日もあるでしょう。	晴れ日数の平年値 約4日
2週目 (3月20日～26日)	天気は数日の周期で変わり、平年と同様に高気圧に覆われて晴れる日が多いでしょう。寒気の影響を受ける日がある見込みです。	同 約4日
3～4週目 (3月27日～4月9日)	天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に高気圧に覆われて晴れる日が多いですが、気圧の谷や前線の影響を受ける日もある見込みです	同 約8日

気温の日別推移 (気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成) (3月16日まで)

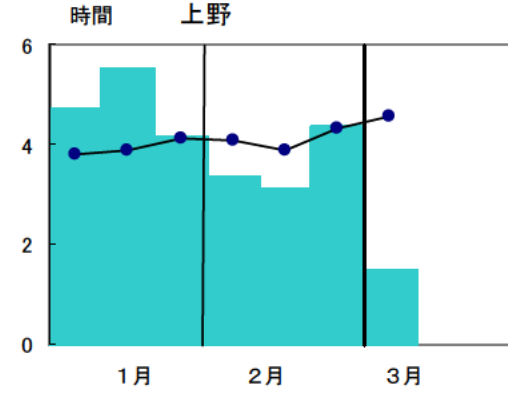
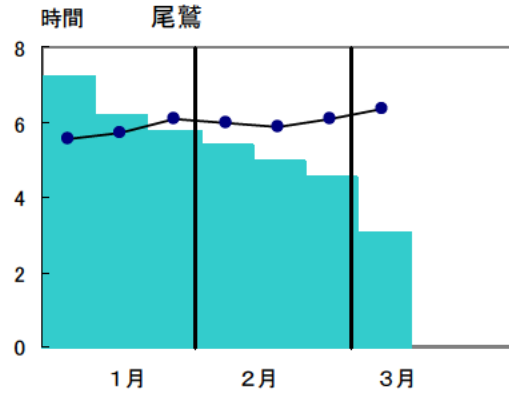
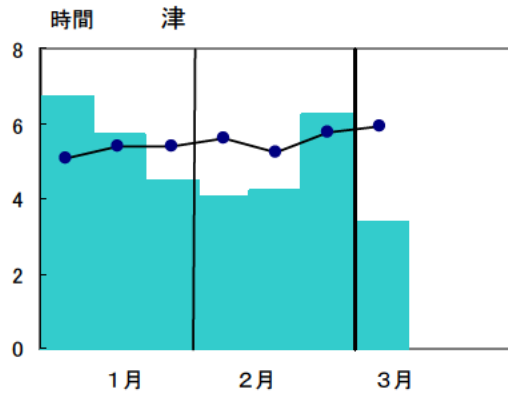


— 平均
 — 最高
 — 最低
 - - - 平年平均
 - - - 平年最高
 - - - 平年最低

降水量の旬別推移 (気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成) (3月上旬まで)



日照時間の旬別推移 (気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成)



7. おしらせ（前回と異なる項目には **NEW** の印があります）

1) 発表日 **NEW**

本年度の病害虫発生予報は次の予定で発表します。

第1回 4月23日（発表済み）	第2回 5月28日（発表済み）
第3回 6月25日（発表済み）	第4回 7月23日（発表済み）
第5回 8月27日（発表済み）	第6回 10月22日（発表済み）
第7回 3月18日（今回）	

2) 利用方法

全部または一部をコピーして回覧・配布にご利用ください。ただし必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/>

このホームページはフリーリンクです。リンクする場合、事前の承諾申請等は不要ですが、事後で結構ですのでメールにてご一報いただくと幸いです。

3) 本冊子の利用の手引き書

本冊子の見方を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」があります。下記のアドレスからお入りください。

http://www.mate.pref.mie.jp/Bojyosyo/files/h21yohotebiki_.pdf

4) メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/merumaga.htm>

5) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登録状況が確認できます。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報」

<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm000.html>